

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並630-1		
自己評価作成日	平成24年12月19日	評価結果市町村受理日	平成25年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=2171300680-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年1月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に掲げている様に、利用者様自身にやっていただく事、選んでいただく事を大切に日々の介護を行っている。また、自然に恵まれた環境にあり、近隣の方のご好意で、山菜摘みやお茶摘みをさせて頂いている。また、気軽に喫茶が利用出来る様に、エリア内でボランティアの方が行っている喫茶に出掛けている。旅行を実施する等、施設に入居してしまった事で、今まで行ってきた事が制限されてしまった(出来なくなってしまう)と思う事が一つでもなくなるように、利用者様の支援を行っている。馴染みの場所、店、人との関係を絶たないよう、出掛ける機会を設けている。梅干し、干し柿作り等の馴染みの習慣や、花見、蛍観賞等の季節感を肌で感じられるような行事を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が、これまで培ってきた生活習慣を尊重し、地域との関わりを大切にした支援を行っている。なかでも、郷土料理を食べる機会を多く設け、楽しい生きがいづくりを実践している。また、一晩どまりや日帰り旅行も毎年継続し、平生の習慣的環境からの気分転換を図っている。さらに、地域との関わりを深めるために、併設施設内にある喫茶コーナーで、馴染みの人と出会う場を提供している。利用者が、穏やかに満たされた生活を送ることができるよう、一人ひとりの価値観を大切に、マナーを守り、言葉づかいに気をつける等、サービスの質の向上に、職員一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分でできること、自分で選ぶことことを大切に』という運営理念を事業所に掲示し、毎日の介護の中で、どうしたらご利用者にしていただけるのか、また、それを地域とのかかわりに繋げられるのかを考えながら行っている。	職員会議や毎日の生活場面で、理念を確認し、共有している。「利用者本位を考えたケアを目指す」「最低限のマナーを守り、言葉づかいに気をつける」等、具体的な目標を掲げ、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流、町の図書館の利用、町で開催される生涯学習まつりへの作品の出品、産業祭や発表会の観賞、地元の店を利用したりして、少しでも多くの方と交流が出来る様心掛けています。	食材等、生活用品は地元の商店を利用している。散歩の途中、中学校に立ち寄りたり、文化祭に参加している。近くの茶畑農家の協力を得て、利用者と共に茶摘みをさせてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や店等に出掛け、地域の方に認知症の理解をしていただける様努めている。中学生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様と触れ合う時間(行事への参加、作品作成等)を設け、利用者様の身体・精神状況を知っていただき、その後、サービスの報告を行い、意見をいただいている。それを介護に活かしている。	隔月に行う会議は、利用者の現状や情報発進の他、感染症予防の学習等も取り入れている。民生委員より「避難訓練の詳細について検討してほしい」等、積極的な意見があり、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議の委員に、地域住民の参加を呼び掛けている。事業所への理解と、関係づくりのさらなる進展に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や入院、入退居の報告をしたり、毎月、ホームのお便りを届ける際には近況を報告している。	同一敷地内にあるデイサービスが災害時要援護者の避難施設として町と協定を締結し、事業所も応援体制を整えている。行政の窓口には直接出向き、行政主催の会合に参加する等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にかかわるマニュアルがある。玄関は見守りが十分に出来ない場合を除いては常に開場しており、万が一出られた場合でも直ぐに呼び止めるのではなく、見守りし、様子を伺い言葉掛けをしている。	「職員の都合を優先した支援を行わないこと」を努力目標の一つとし、拘束をしない取り組みを実践している。言葉による拘束等、その都度場面をとらえ、学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践者研修受講者は学んでいる。また、研修を受講した者が他の職員に伝達研修を行っている。法人でマニュアルを作成している。職員会議でも議題に出している。虐待と見受けられる行為があれば管理者に報告し、防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用しなければならないご利用者はいない。職員は研修で学んでおり、研修を受けた者は伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問な点があれば納得がいくよう説明を行っている。改定の際は家族会で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の案内を行ったり、面会時に伺っている。職員からの意見等があった場合には、職員会議やエリアでの会議で検討し、議事録や申し送りノートに記入し、職員全員が周知できるようにしている。	年1回、家族アンケートを実施し、集計後、家族に報告し、改善につなげている。担当者が利用者の日常の様子や身体状況を手書きで家族に送付し意見を求め、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議での意見交換、意見・提案があれば話し合う時間を設けている。	運動会や行楽、誕生日、外出等、行事担当職員が中心となり起案、実施している。職員会議は、ケアで不安なことや改善点を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度終わりの自己評価も参考にして、職員の勤務状況を把握している。また、本人の望む研修に参加出来る様、勤務を調整したり、家庭の事情を考慮し勤務を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修に参加したり、一般の研修やセミナー等、興味のあるものについては、参加出来る様勤務の調整を行い、質の高いサービスの提供が出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内には同業者がない為、法人内のグループホーム7カ所で2カ月に1回、向上委員会を開催しサービス提供に関する意見交換、勉強会を行っている。また、合同で行事を行い交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時、利用者様や家族様から直接聞き取りを行い、入居してからはご本人とかわりながら、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の症状等を伺い、具体的にどんな事で困っているか、また、どのような要望があるのか、話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、ご利用者、ご家族の立場に立って利用者様の「その時」を見極め、何が今一番必要な状況であるのか、見極め、助言、対応している。サービスの利用に当たっては上司に報告、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のコミュニケーションの中から、お互いの生活習慣や行事を共有しながら関係を築き、学ぶ姿勢をもち一歩的な介護にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるようお願いをし、家族様参加の行事を取り入れ、一緒に過ごしてもらう時間を設けている。毎月、近況を報告し、カンファレンスにも出来る限り参加していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイサービスセンターを利用している知人や近隣に住んでいる方との交流や、年賀状等のやり取り、地域の行事や店等に出掛けるようにしている。	知人や親せき等の訪問があり、気楽に過ごし、関係継続につなげている。近くの商店で馴染みの人達と出会い、挨拶を交わしている。墓参り等は家族の協力を得て、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起こるような方とは、職員が間に入り、他の利用者様との間を取り持っている。また、レクリエーションを行う時、利用者様同士で誘い合ったり声を掛け合ってみえる。誕生日を皆で祝ったりしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居後も、必要に応じ利用者様の情報交換をし、また、エリア内の特別養護老人ホームに入所された場合、訪問し言葉掛け等心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望はご本人の記録やケアプランに記録し、職員全員が把握できるようにしている。思いを伝えられる方に関しては希望に沿えるよう努めている。困難な方に関しては、今までの生活状況や身近な方から情報を得、見つけ出している。	ゆったり寄り添うケアの中で、新聞の広告を話題にし、思いや意向を把握している。今、お茶が飲みたい、トイレに行きたい等、表情や仕草から察知し、その人の思いに沿った暮らしを支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を一部活用し情報を収集している。日常会話の中からだけでなく、家族様や知人からも収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事はご本人の記録に入力、状態に変化の見られる方は、常に申し送りを行い職員全員が把握できるよう努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様が面会にみえた時に話を伺ったり、出来る限り、ご本人、家族様にもカンファレンスに参加していただいている。また、モニタリングは職員の意見を聴き毎月行っている。	介護記録を基に、職員の意見を計画に反映している。利用者本位のケア計画ができるように、その都度、本人・家族と話し合っている。定期的にモニタリングを行い、随時、見直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い、気づきや工夫も記録できる項目があり、そこに入力している。また、モニタリング意見用紙により、職員間の気づきや意見を自由に記入できるようにし、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に代わっての受診の付き添いや、利用者様の個人的な外出の送迎を行っている。	

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな利用者様には地元の図書館を利用していただいたり、行きつけの美容院に出掛けられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前にかかっていたかかりつけ医がほとんどである。家族様の希望で定期的に往診していただいている利用者様もみえる。また、緊急時に往診をお願いする時もある。定期的に訪問歯科にかかってみえる方もみえる。	それぞれが、利用前の、かかりつけ医を継続している。定期受診は家族で、緊急時は職員が支援している。近隣のかかりつけ医や、歯科医の往診があり、安心な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスセンターの看護師に相談したり、診ていただいている。また、エリア内のグループホーム七宗担当の保健師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	木澤記念病院の地域連携室の職員と連絡を取り、情報交換している。また、直接利用者様と面会し、担当看護師に話を伺う事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の病状の変化には、家族様、主治医との連絡を密に取り、今後の対応の方針、緊急時の対応を相談。家族様と話し合い、利用者様、家族様の意思の確認を第一に支援している。また、重度化した場合も意向を重視し主治医の診断に従い支援する。	入居時に、重度化や終末期に関する事業所の方針を説明している。かかりつけ医の協力、家族の介護協力等、環境を整えば、終末期の支援を行っており、看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年一回の救急救命講習に参加し、年二回、隣接するデイサービスセンターとの合同防災訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、昼夜の防災訓練を行っている。	地域の防災訓練日に合わせた訓練を実施している。地震、夜間を想定した避難訓練、救命救急講習等も実施している。法人の職員と関係者が地域住民として、連絡網に連ね、災害に備えた協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちになり、不愉快にさせないような言葉掛け、対応に心掛けている。また、周囲にも配慮するようにしている。例えばトイレに誘う際には遠くから大声で誘わない、何か失敗されたら何気なくフォローをしている。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い「最低限のマナーを守り、言葉づかいに気をつけること」を周知している。さらに徹底するためには、継続した努力が必要である。	何気ない会話の中で、利用者のプライバシーにかかわる話をするなど、配慮に欠けるケアをしてしまうこともあるため、事例を基に、学習の継続に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念にも掲げている様に、自己決定する事を大切にしている。思いや希望を表せるよう、また、自己決定できるような言葉掛けに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状況を把握し、個性を大切にしている。また、本人の意思を確認し支援している。朝が苦手な方にはゆっくり休んでいたり、昼寝や入浴等本人の意思を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用し、毛染めやパーマ等、本人の希望で行っている。また、馴染みの美容室が利用できる様支援している。化粧を希望される方にはしていただいたり、普段着や外出時の衣類も出来る限り選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	エリアの栄養士が作成した献立に利用者様の好みや旬な物、郷土料理や行事食を取り入れ、作りながら食べたり、好きな物を目の前で取り分けられるようにしたり工夫している。個人の能力に合わせ準備や片づけを利用者様と一緒にやっている。	献立は、利用者の好みや旬の物を提供している。利用者の経験を活かし、次の献立につなげている。対面式のキッチンで、準備や片付けに参加している。郷土料理のしし鍋、へボ料理等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	エリア内の栄養士に変更した献立表を提出、栄養バランスをチェックしてもらう。こまめに水分補給が出来る様お茶の作り置きやポカリスエット等を常備。水分を摂れない方は飲み物の種類を変更、時間をおきすすめる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、能力に応じた支援をしている。週に1回ポリドントによる義歯の洗浄を行っている。歯科衛生士による週1回のケア、月1回の診察を行っている利用者様もみえる。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄時間を用紙に記入し、職員が情報を共有し、個別に排泄対応、誘導を行っている。夜間も誘導を行い、オムツを使用しなくてもよいように支援している。	排泄チェック表で、一人ひとりのパターンを把握している。きめ細かな誘導、言葉かけをすることにより、おむつはずし、パッドの使用量軽減等、自立につながる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、朝食に乳製品を取り入れ、こまめに水分補給を行っている。日中は身体を動かす支援や、トイレ誘導時、腹部マッサージを行っている。便秘気味の方は主治医に相談し下剤や坐薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に希望を聞き、昼夜入浴を行っている。毎日入浴したい方には毎日入浴していただいている。出来る限り本人が入浴したい時に出来る様にしている。昼間の入浴も急かさず、ゆっくり入浴できるよう心掛けている。	隔日の入浴を基本としているが、入浴時間や回数など希望に添い、ゆったり入浴できるよう支援をしている。柚子、菖蒲等、季節の風物や、介助職員との会話も楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後を問わず、本人が希望されれば臥床していただいている。室内の湿温度・明るさ・換気等の調節を行い、不快感を与えないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに処方箋を綴り、処方に変更があった際には申し送りをし、直ぐに新しい情報が得られるようにしている。薬のマニュアルを作成し、確実に服薬が出来る様、配って飲み込むまでを確認しチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や仕事、生活ぶりの情報を得て、野菜・花を育てたり、調理、掃除等を行っていただいている。本人の希望で本を借りに出掛けたり、個人のお菓子を買って出掛けたり、知人に会いに出掛けたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望に沿って、1日1回でも屋外に出られる様、気候の良い日は散歩に出掛けたり、買い物、ドライブ等個別の希望にもそえる様努めている。家族様にも協力をお願いし、外出する機会を設けている。	複合施設で共用する広い敷地が、安全な日常の散歩コースとなっている。買物ドライブ、行楽等、外出の機会を多くし、年に1回は、遠方への一泊旅行に出かけている。	

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は少額を事務所に管理している。スーパーでの買い物では、利用者様に支払いをお願いしている。外出の際に個人のお金を持参し、欲しい物を購入していただき自分で支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できる様になっている。電話を希望される方には職員が傍で支援し、話をしていただいている。また、暑中お見舞いや年賀状を家族や知人に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ばかりでなく、浴室・トイレの温度管理にも気を付け、不快にならないようにしている。同じような戸ばかりの為、浴室・トイレ・居室を間違えやすい方の居室には大きな字の張り紙をしている。四季に応じた花や飾りつけをし、季節感を出している。	共用の空間は空調がほど良く、利用者は薄着で活動している。季節の花や観葉植物、共同作品や行事の写真等、季節感や生活感を採り入れている。ソファーや新聞、雑誌等を適所に置き、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも椅子、ソファーを置き、いつでもくつろげる様にしている。また、居間の棚にはいつでも使用できるように本や折り紙、色鉛筆、ボール等の余暇道具が置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた物や、今まで本人の部屋に飾ってあった物、大切な物を持ってきていただくようお願いしている。また、居室担当者が利用者様と一緒に作品を飾ったりしている。	居室の入口には好みの表札が掛けてある。使い慣れた整理筆筒、鏡台等を持ち込み、家族の写真を飾り、安心して暮らせるよう工夫し、その人の好みに合わせた配置や飾り付けを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、分かりづらい場所には大きな字の張り紙をしている。居間の棚には本や折り紙、色鉛筆、ボール等の余暇道具が置いてある。日付が分かるような大きな日めくりを掲げている。		